学習者と共に歩んでいく学びの道

魏（ウィ） ヘンニム
中京大学グローバル教育センター
特定任用講師

韓国での韓国語教育現場で少なからぬ時間を過ごした私は、日本で新しい学習者を対象に韓国語授業を実践することになった。私が出会う学習者はグローバルな人材になることを目指し、英語とともに第2外国語として韓国語を学習する大学生である。

所属する中京大学で私が主に担当している科目は、国際学部の2言語習得プログラムおよび全学共通科目の韓国語科目だが、ここでは国際学部での2言語習得プログラムの韓国語授業を中心に記述する。

国際学部の2言語習得プログラムは、複数の言語を習得し、多様な社会で柔軟に活躍できる人材を養成するために2021年から実施されている。国際学部の学生は2年次から「フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、イタリア語、韓国語」の7つの外国語の中から1つを選択して受講する。これはヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に従って、学習者がその言語を使って何をどれくらい遂行できるかを重視する行動主義の教授法で進められているが、コロナ禍での授業運営は相互作用や活動の実践などの面でさまざまな制限があった。

もともと私はニューノーマル時代の韓国語教育に高い関心を有していたが、ポストコロナ時代の韓国語教育についても工夫せざるを得ない状況にある。このため、文部科学省の大学教育の質の向上のための取り組みおよび所属機関の教育方針により、韓国語教育において次の3つのことを実践している。

まず、省察ノートを通じた自己主導的学習の実践である。私の授業を受ける学習者は、毎回省察ノートを作成して自分の学習を反省し、その後の学習方向を自ら調整していく。この時、私も毎回学習者の省察ノートを確認しながら、学習者からの質問に答えたり、その後の学習内容を調整したりするなど、学習者からのコメントを授業運営の参考にしている。もちろん、学期前からすでに計画し

ていたシラバスは遵守しているが、学習者の理解度によって学習資料を調整したり、活動を追加したりしている。

次に、ＩＣＴを活用したアクティブラーニングの実践である。私の授業に参加する学習者には、多様なオンラインツールを活用して授業活動に積極的に参加することが求められる。私にとって、オンラインツールの活用は特にハイフレックス授業（対面授業とオンライン授業を同時並行的に行う授業形態）を行う時に有益である。これを通して教室現場とオンラインという異なる学習空間をつなぐことができ、教室の学習者、オンラインの学習者、教授者間の多面的な相互作用ができるようになった。このために私は、学習者にオンラインツールの使いやすい環境を提供し、学習者が興味を持って積極的に相互作用できる課題を開発するといった工夫を講じている。

最後に、相互文化理解学習の実践である。私の授業に参加する学習者は韓国の言語と文化を共に学習する。学習者は、韓国の文化だけでなく日本および自分の出身地、故郷の文化についても考えながら、異文化を理解する時間を持つ。外国人教員である私の良い点は、学習者にグローバル感覚を持たせやすいことである。異国の人である私に向けて、学習者に自分の故郷について紹介させたり、あるいは教授者の立場で日本文化を客観的に眺めさせたりすることで学習者の視野を広げることができる。このように、学習者と教授者が相互作用しながら学習内容を実践し、日韓両国の言語文化に対する学びと理解を深めている。

以上の通り、私が教育現場で行っている3つの実践を紹介してみた。この実践を維持するために私は、学習者が中心となる授業とは何かを常に考えている。時間の経過とともに、学習者に必要な学習内容や方法、学習者が求める学習スタイルは変わっていく。そこで私は、教授者の自己啓発は決して欠かせないものと考え、教育実践に関する学びや研究を続けている。これは学習者のためでもあるが、私自身のためでもある。与えられた環境でベストを尽くすことで、学習者から肯定的なフィードバックを受けたときの喜びは言葉では表現できないほどである。

「この授業を通して自分の世界観が広がるようになった」という、ある学習者のコメントが記憶に残っている。私はこれからも学習者に対する想いを大切にしていきたい。教育現場で学習者と目を合わせながら一緒に歩み、共に成長していくことを考えると、今後の授業に一層期待が高まる。